



口加だより

平成29年12月22日発行
長崎県立口加高等学校
第9号

あやめが丘の窓から

もう、いくつ寝ると…

校長 下 釜 祐 保



小さい頃はお正月が来るのが楽しみだった。子ども心に、特別の時がやってくると期待した。お年玉をもらえること、新しい服を新調してもらえること、そして親類・縁者が集まるなどもあり、ワクワク感があつた。

もう、いくつ寝ると、お正月…。平成30年がやってくる。

一方、今年、平成29年の元日はどのように始めたか、諸君は覚えているだろうか。私事だが、私は鹿児島で今年を迎えた。元旦には、桜島の背中から登るお日様に手を合わせた。あの日から、もう1年。改めて月日の経つ速さを痛感する。

人間は、どのようにしてこの「時」の概念をつくったか。

1年に360回、夜、そして朝が来る。1年は360日。そこで、太陽の周りを1日で公転する中心角を1°と決める。古代バビロニア人が考えた、1周を360°とする角度を測る「度数法」の定義。古代バビロニアと言えば、紀元前1,800年前後だから、今から3,800年ほど前の話。数学、天文学のレベルの高さが伺われる。60進法を用いた時の標記の始まりと言われる。

宇宙の彼方から太陽と地球を見ると、今日も昨日より1°動いた。翌日もまた1°だけ動く。毎日毎日、地球は自然の原則に従って同じことを繰り返す。私たちの生活も同じかもしれない。朝起きて、学校に行って、帰って、夜に寝る。仕事に就いたら、学校が職場に変わり、結局、同じことを繰り返す。我々の人生も、少しずつ動く地球の公転と同じ「繰り返し」なのかも知れない。

そこで、人生が単なる繰り返しではもったいないと、「時」という概念を考えた。過去を振り返り、今後を考える機会として時という節目を利用する。人類がつくった最も価値ある知恵に思えてならない。

もう、いくつ寝ると、お正月…。平成30年がやってくる。「一年の計は元旦にあり」という言葉もある。これまでの1年を振り返り、新しい年を迎える大きな節目を、大きなチャンスにしたい。

どうぞ、良いお年を…。



学年だより

～第1学年より～

厳しい寒さが続く中、間もなく平成29年が終わろうとしています。この節目の時に、私が大学生の時に勉強した話をひとつ。

私は大学生の時、教育学部ではなく、国際文化学部というところで学びました。その時、「仏教」の講義の中で学んだ「輪廻転生」という言葉が、今も私の心に強く残っています。大学の教授曰く、正しい読み方は「りんねてんしょう」。意味は「生きている間も常に新しい自分に生まれ変わっている」という意味だそうです。私達の気持ちは刻一刻と変化しています。その度に新しい自分に生まれ変わっていると言えるのだと教わりました。

新年を迎える時も、私達は昨年までとは違う新しい自分に「生まれ変わっている」はず。だからこそ、なりたい自分になるために目標を掲げて、新しいことにもどんどん挑戦して、平成30年を頑張っていきたいですね。

(1学年2組副担任 岩村 えりな)

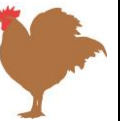


～第2学年より～

12月下旬から1月初旬にかけてのこの時期、クリスマスにはツリーやライトを飾ってイエス・キリストの誕生を祝い、それが終わるとすぐにしめ縄や門松を飾って正月を祝う。全く異なる宗教の行事を続けざまに行うという一風変わった風景が当たり前のように見られる。ここには「八百万の神」—自然のもの全てに神が宿っている—という日本古来の信仰心が下地になっており、他文化を真似て取り入れることに抵抗がない様子がうかがえる。そのことを示すかのように「まねぶ」という言葉がある。「学ぶ」と同じ意味で使われることから、何事も真似から始めなさいという話によく使われている。

このように日本人にとって真似をすることは一種の文化だと言える。今、何をすればいいのかわからない。まだ、やりたいことが見つからない。そんな時にはとりあえず真似をすることから始めてみたらどうだろうか。

(2学年1組副担任 磯口 勇平)



～第3学年より～

最近、年末年始の過ごし方を簡略化しすぎていることを自覚し、反省している。

以前はもっと大切に年越しをしていた。12月中旬から年越しの準備を始め、あれこれ整えていくうちに、気持ちもキリキリとネジを巻くように引き締まり、大晦日までにやるべきことをやって、今年も終わるんだとしみじみ思いながら除夜の鐘を聞いていた。年が明けたとたんフワッと緩やかで、穏やかな時間になり、日常のリズムにだんだんと戻っていく変化の中で、新年を迎えたという気持ちの切り替えができていた。近頃はバタバタしているのを言い訳に、年越し準備も最低限。年末年始もただ一晩過ぎただけという感じに近い。一年の節目なのに、なんだか粗末にしているようで後ろめたい。節目はそれを迎える人の心持や行動で意味や意義が変わるのだとつくづく思う。

「節目」を辞書で引くと、木材などの節や、物事の区切りの意味を持つ。竹は中が空洞でも、節があることで風に吹かれ、揺らされても高く伸びていける。

人生における節目は、次のステージに進むためのしっかりとした締めくくりをすることで、いろんな境遇や状況に応じて進歩していける足掛かりとなる。3年生の皆さんはこの節目を迎えていますが、大切に過ごしていますか？卒業までの日々、ぜひ次も見据え高校生活の締めくくりと相応しい有意義な時間にしてください。

(3学年3組副担任 野口 敦子)



2学年修学旅行～東京へ3泊4日の旅～

12月5日(火)～8日(金)の期間、2学年が修学旅行へ行ってきました。今年も4日間天候に恵まれ、研修や移動をスムーズに行うことが出来ました。自主研修や語学研修、宝塚観劇に、ディズニーランドでの自由時間など存分に満喫し、たくさんの思い出とお土産を持ち帰ってきました。



～修学旅行を終えて 生徒たちの感想～

○1日目 宝塚観劇について：2年1組 永友 真純くん

宝塚には興味がなく、どっちかと言ったら吉本の方がよかったなあと考えていました。しかし今は宝塚でよかったと思っています。公演が始まると会場が一気に静まりかえり、出演者の方々の気迫のこもった演技を間近でみる事ができました。また、一つ一つの動作が常に全力で、50～60人という大人数であっても全員の動きがそろっていたのでとても美しくカッコよかったです。公演の最後に何度もくり返された「ブーケドタカラヅカ」は、今でも印象に残っています。宝塚は今後見に行く機会もないと思うので貴重な体験ができてとても良い思い出となりました。

○1日目 自主研修について：2年3組 林田 響くん

自分がこの修学旅行を終え学んだことは、自主研修で計画を立てる楽しさ、そしてそれを共有することができる仲間がいる大切さです。当日道に迷ってしまいましたが、四苦八苦しても目標を達成できたのは良い経験になりました。そして班員全員不満のない計画と行動ができたのも良かったです。

○2日目 語学研修について：2年4組 田中 一晃くん

語学研修では、英語を使って留学生とたくさん会話をすることができた。しかし、文字で見ればわかるような内容がうまく聞き取れなかったり、自分が話したい内容をどのように伝えればいいのか分からなかったりして、とてももどかしく感じた。

○3日目 ディズニーランドと講習会について：2年2組 鬼塚 礼奈さん

講習会では、キャストさん達はマニュアル通りではなく自分で考えて行動していると聞いて驚きました。実際に、ディズニーランドで道が分からなくて迷っていると、声をかけてくださって、親切に教えてくださいました。ディズニーランドはテレビでしか見た事がなかったアトラクションやパレードが見れて最高でした。また、大人になったら行きたいと思います。

校外の行事など

税の作文コンクール授賞式

1年生全員が夏休み課題として取り組んだ、国税庁主催の「高校生の税の作文コンクール」の表彰が、11/27(月)に校長室にて行われました。1-3 井上祐香さんが島原税務弘報協議会優秀賞を受賞しました。



歳末助け合い街頭募金

12/1(金)に口之津・加津佐で毎年恒例の街頭募金を行いました。募金会場となったお店の方々にもご協力いただき、また多くの方々の募金により、校内募金と合わせて102,804円もの金額が集まりました。社会福祉法人長崎県共同募金会へ振り込ませていただきます。ご協力ありがとうございました。

今月の生活創造コース

2日(土) 口之津図書館クリスマスおはなし会(2年生)

手作りのペープサート「6わのからす」と、ブラックパネルシアター「アラジンとまほうのランプ」の実演をしました。

2日(土) 家庭技術検定 食物1級(3年生)

9日(土) 家庭技術検定 洋服1級(3年生)

12日(火) 若木保育園実習(3年生)

クリスマスプレゼントとして、各クラス向けに大型絵本や紙芝居の読みかきかせを行いました。



今月のグローバルコース

12月14日(木)長崎県立大学経営学部、山崎祐一教授を招いて、出前講座を実施しました。『英語コミュニケーションにおける非言語メッセージ』というタイトルで、90分の講座でしたが、あっという間に時間が過ぎたと感じるほど集中した良い時間になりました。

<生徒の感想>

「今日の講話を聴いて、会話は非言語な部分が重要な要素であることに気づきました。日本語と英語では重視する部分が異なっていることを初めて知りました。」

「非言語コミュニケーションは私たちの普段の生活の中で身に付き、アメリカの人たちが生活の中で身に付けていくこととの違いが、文化の違いなのかと思いました。来年のオーストラリア研修で、今日学んだことを発揮できるように頑張ります。」



職員ペンリレー 松竹 一成

今年2月から育児休業をとり、11月から職場復帰しました。おかげさまで1歳1か月になった三つ子の娘たちの成長を間近で見ることができました。今は、3人ともひとり歩きの練習中で、転んだりぶつかったりしても笑顔ではしゃいでいます。

育児期間は新たに学ぶことばかりでした。子育て情報誌を読み、地域の子育て支援センターで知り合った方々にいろいろと教えてもらい、なんとか子どもの衣食住を整えることができました。店舗で目にする子ども用品は工夫が満載のものばかりで、そのアイデアに感心しつつありがたく購入させてもらいました。初めて深い関わりを持った医療・保育関係の職業の大変さも垣間見ることができました。

よく笑いよく泣きよくしゃべる三つ子から学ぶこともたくさんありました。親として成長させてもらっているなあとつくづく思います。最後に、新婚の夫婦の抱負のようになってしまいましたが、子ども達が周囲を明るくする優しい人に育つような家庭を作っていきたいと思います。